

在宅医療介護連携事業

羽島郡医師会

在宅医療ははじめの一步 ～在宅医療に関わる多職種のための講演会～

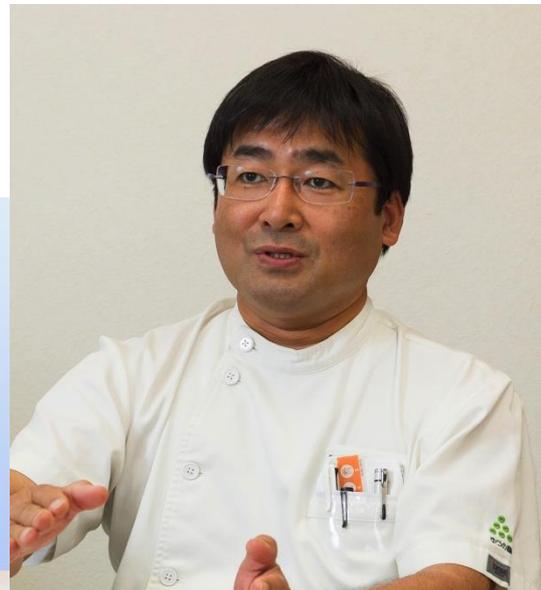
全国有数な在宅医療クリニックであり、
全国在宅医療テストの主催者でもある
永井先生に在宅医療を行なう医師や
多職種向けの講演をしていただきました。
参加アンケート回収者:67名

来場者の98%が満足！

非常に満足 50%
満足 48%

医療法人ゆうの森
たんぽぽクリニック
理事長 永井康德先生

医療法人ゆうの森
たんぽぽクリニック
医療事務 江籠平さん



在宅医療ははじめの一步

～制度と理念とノウハウを学ぼう～

国が目指す「2025年 医療・介護提供体制モデル」の実現に向けて重要な役割を担う在宅医療は、ここ数年の改定で手厚く評価されてきました。

2014年の診療報酬改定でも、その方針は基本的に踏襲されたものの、緊急対応や看取りといった、在宅医療が本来果たすべき役割を重視した報酬体系へと意識が戻られました。報酬の算定要件を満たし、真の思い在宅医療を提供するためには、診療・介護報酬、訪問看護療養費の各制度が複雑に絡み合う算定ルールを正確に理解することが不可欠です。

在宅専門診療所のパイオニアで、数多くの在宅患者を診療してきた、たんぽぽクリニックの永井康德先生と事務課長「江籠平紀子」さんが算定の「ツボ」を、在宅医療の理念について平易に解説します。

2014.8.25 19:00▶21:00

場所 笠校中央公民館 (笠校町常盤町6番)

参加料 無料

対象 在宅医療を行なっている、あるいは関心のある医師、介護事業者の方

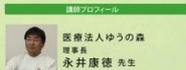
内容

在宅医療の礎である医療保険の仕組みを復習しよう
講師：医療法人ゆうの森 事務課長 江籠平 紀子さん

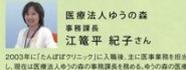
在宅医療ははじめの一步
～在宅医療の質・理念×システム×人財～
講師：医療法人ゆうの森 理事長 永井康德先生

主催 羽島郡医師会
後援 岐阜県医師会、岐阜県看護協会、羽島県医師会、羽島県
歯科協会、笠校町、笠校町、笠校町社会福祉協議会、笠校町
社会福祉協議会、在宅医療推進 水巻川トンネル

お問い合わせ 在宅医療推進 水巻川トンネル 担当/平田
TEL 049-3677-7830



講師プロフィール
医療法人ゆうの森
理事長
永井康德 先生



医療法人ゆうの森
事務課長
江籠平 紀子さん

観覧申込み開始に必要な事項をご記入の上、FAXにて申込みください。
電話、メールにてのお申込みも可です。詳細は要綱をご覧ください。

この講演会は「平成26年度岐阜県医師会地域在宅医療推進事業」の一環で実施しております。

アンケートより

- ◎最期のときをどのようにかなえてあげられるのか。私たちがどこまでできるかが大切です。
- ◎安心して在宅へ帰れるために、私たちができることは何かを学ぶことができた
- ◎私は医療事務スタッフでマニュアルはとても勉強になりました。今回先生にお会い出来ることを知り、とびつくようにやってまいりました。とても為になり、私達の様なスタッフで患者様に関わらない者でも何か出来るのではないかと思いました。これからまた再スタートしたいと思います
- ◎在宅医療がどのようなアプローチを行っているのかを知れ、また、自分たちの介護に対する考え方を見つめなおすことができました。

11月11日は介護の日

羽島郡「介護の日」フェア

地域への普及啓発活動として「介護の日」フェアを開催。
地域の方々、多職種含め約80名が来場。

行政と医師会で広報・実施したため、来場のきっかけは
「回覧板11」「町内のお知らせ6」「チラシ12」「職場6」
さまざまなルートから集客ができた。



笠松町公民館 3階貸切





音楽療法士のミニコンサート

在宅の食楽支援コーナー
～嚥下にやさしい
和菓子・おかず～



11月11日は介護の日。

第一回 羽島郡「介護の日」フェア

NHK「ためしてガッテン」～断然ラク!自宅の介護 負担激減のミラクル技～
NHK Eテレ「楽ラクワンポイント介護」で
話題となった楽ラク介護法の青山幸広さんが羽島郡にやってくる!

羽島郡内の在宅医療・
介護に精通する
事業所や情報が大集合!

2014.11.11 火

11:00・16:30 (記念講演 13:00～)

場所 笠松中央公民館
岐阜県羽島郡笠松町笠松町1番地
講堂2階Aホール (公民館内各会
講堂会+兼接：大ホール)

参加料 無料

在宅介護のなんでも
相談受け付けます!

13:10～

オープニングコンサート
ヴァイオリニスト・音楽療法士
濱島秀行さん

記念講演 13:30～

楽ワザ介護の極意
～介護を楽しくする「ワザとココロ」～
ケアプロデュースRX組 代表 青山幸広さん

保育士を経て、介護福祉士へ、研修の
いり介護専門学校と全国の施設を見て
回り、介護する側から考える楽な介護
法を開発。2001年フリーの介護アドバイザーとなり、現在は介護事業者の育
成と全国講演などを行なう。

主催 羽島郡医師会
後援 笠松町、稲葉町、笠松町社会福祉協議会、稲葉町社会福祉協議会、
在宅医療支援 中部3市医師会
問い合わせ先 : 笠松町地域包括支援センター 056-285-7133
稲葉町地域包括支援センター 056-247-1321
2014年11月11日(火)11:00～16:30(記念講演13:00～)開催予定です。

定員満席 14:45～16:30

～実際にやってみよう!～

- 寝たきりにさせない相手の力を使う
寝返り・起き上がり
- 立つ気にさせる立ち上がり介助
- ベッドから車いすへの移乗動作 など
ケアプロデュースRX組

在宅医療相談窓口
も同時開催



全国的に著名な介護士による
講演&介護実習

福祉用具体験・展示コーナー



ふりかえり

- ◎行政・医師会・介護事業所などが協力しあって、フェアの企画運営を行うことができた。
- ◎「在宅栄養」についての試食ができ、名古屋の老舗和菓子屋と一緒に商品開発ができた。
- ◎相談窓口には医師会員6カ所の協力を得ることができた。

アンケートより

- ◎バイオリンのコンサート、とっても良かったです。講演も目線を変えれば、また違った介護ができるのだと思えることができました。この方法しかないと思いついていた事も多くあり、考え方をもっと自由に、その人らしさを頭に入れ対応したいと思います。
- ◎介護とは、その人らしい当たり前の生活を送ってもらうこと。食事は好きな人と良い雰囲気ですることが大切。おいしさプラスで大切だと分かりました。青山さんのお話は勉強になりました。

「羽島郡在宅医療・介護連携ガイド2015」作成中



<http://www.kisogawa-tombo.net>

今回、2年の間に
新規事業所10か所、廃止事業所2か所あり
定期的な情報更新は必要だとわかった。

医師会、歯科医師会、薬剤師会、
地域包括支援センターが
全面的に協力しているので
スムーズに踏み込んだ情報を
集められています。



今後の取り組みについてのご紹介

在宅医療をすすめるために

在宅になっても自宅で身の回りのことができる体づくりのための提案

①活動量計を用いた運動管理システム

より安心して在宅医療が受けられるための提案

②24時間バイタル見守りによる在宅患者管理システム

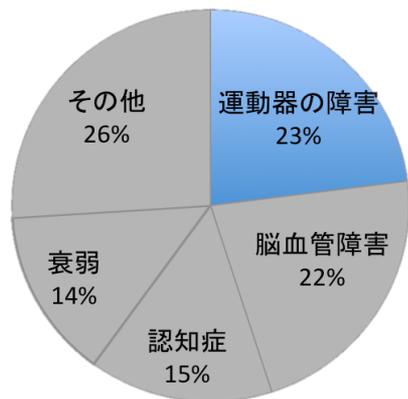
現代文明の発達により

- ① 第一次産業において、作業の効率化・自動化により、昔ほど体力が必要でなくなっている。
- ② 誰もが車を運転している(公共交通機関が必要なくなる)
- ③ 家庭内での運動量の減少(自動・調理、掃除)



現代人の運動量の低下にともなうロコモティブ症候群※の増加

要支援・要介護の原因



※ロコモティブ症候群

「運動器の障害」により「要介護になる」
リスクの高い状態になること

ロコモティブ症候群は
「メタボリック症候群」
や「認知症」と並び、
要介護の主な要因の
一つである

医療費・介護費の
圧迫につながる

予防には、骨を丈夫にすることと、骨を支える筋肉を強くすることが大切

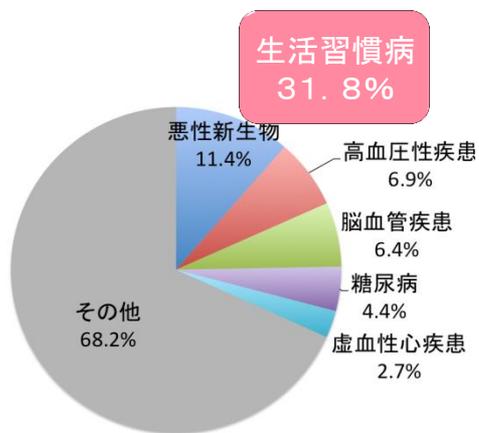
食生活の変化

- ①和食より洋食(米よりパン、魚より肉)
- ③コンビニやファーストフードなど、美味しいものがすぐに手に入る
- ④食べる量や種類の増加



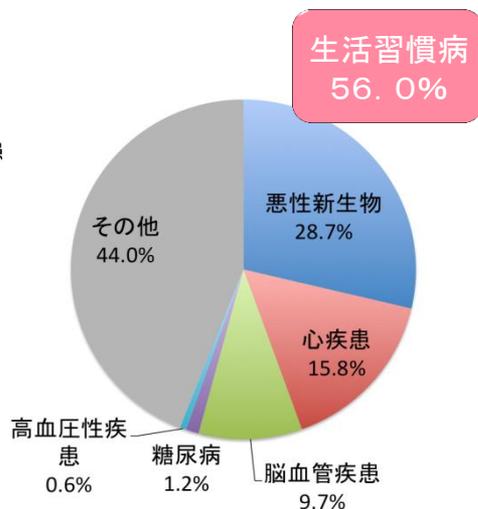
内臓脂肪型肥満に起因する生活習慣病患者・予備群の増加

疾患別医療費



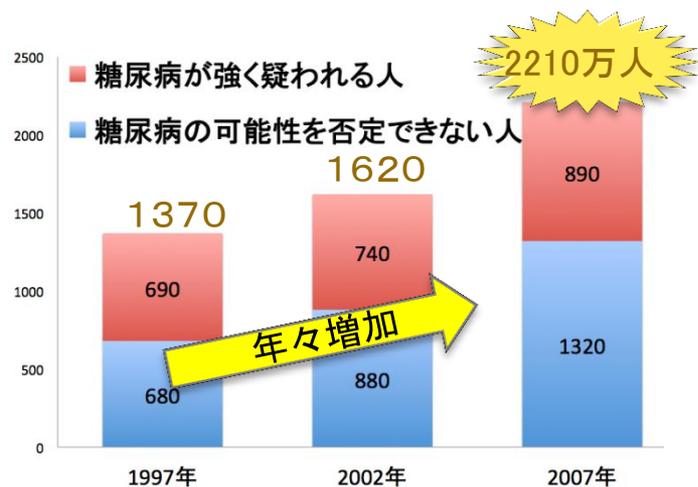
(備考)厚生労働省「平成23年度国民医療費」より

死因別死亡割合



(備考)厚生労働省「平成24年度人口動態統計」より

糖尿病の患者数の推移



(備考)厚生労働省「平成9、平成14年度糖尿病実態調査、平成19年度国民栄養調」より

メタボリック症候群が医療費の圧迫につながる

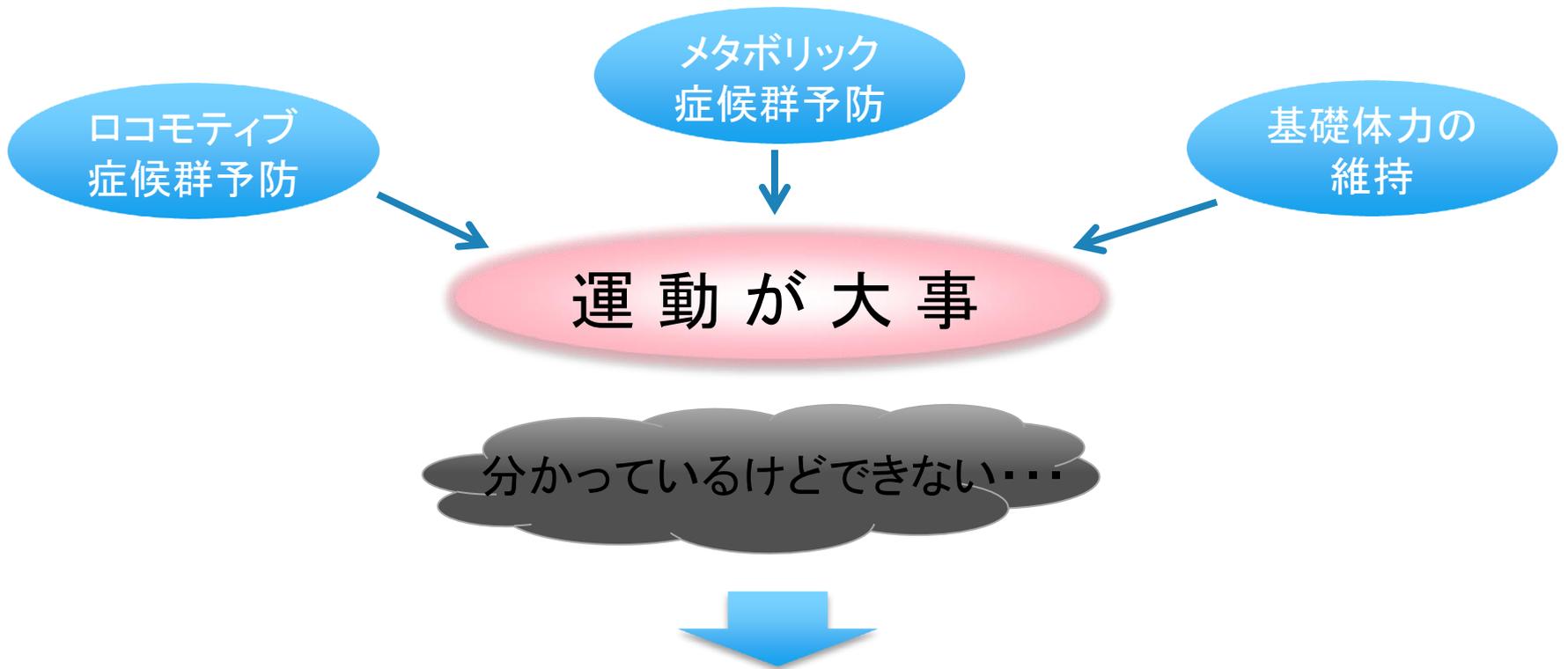
医療費削減のために、国は在宅医療を推進



そもそも在宅医療に耐えうる基礎体力がなくては在宅医療は無理



在宅医療に耐えうる基礎体力作って
維持しておかなければならない



ロコモティブ症候群、メタボリック症候群を予防し、
医療費を削減するためには

個人にまかせず、
いかに強制的に運動させるか

運動したことを実証するか

地域でいかに大人数を管理するか

が重要

ロコモティブ症候群とメタボリック症候群の予防、基礎体力維持を目的とした「いつでもウォッチ1-運動管理版-」による運動管理システム

「いつでもウォッチ1-運動管理版-」とは



① リストバンド型運動管理機器

② 活動量計を搭載する

写真の機器は歩数以外に脈拍を測定することができるため、お年寄りでも無理のない範囲での運動を促すことができる

③ データ通信機能搭載

活動量を管理するために、1日1回、活動量データが医師会の管理室に自動送信される

④ 簡単に着脱できない

もしくは手首静脈による本人認証を行い、本人以外の「代理運動」を防ぐ

⑤ 持っていることが楽しくなる機器

活動量だけでなく、消費カロリーや睡眠パターンも表示させることによって、運動意識や健康意識を高める



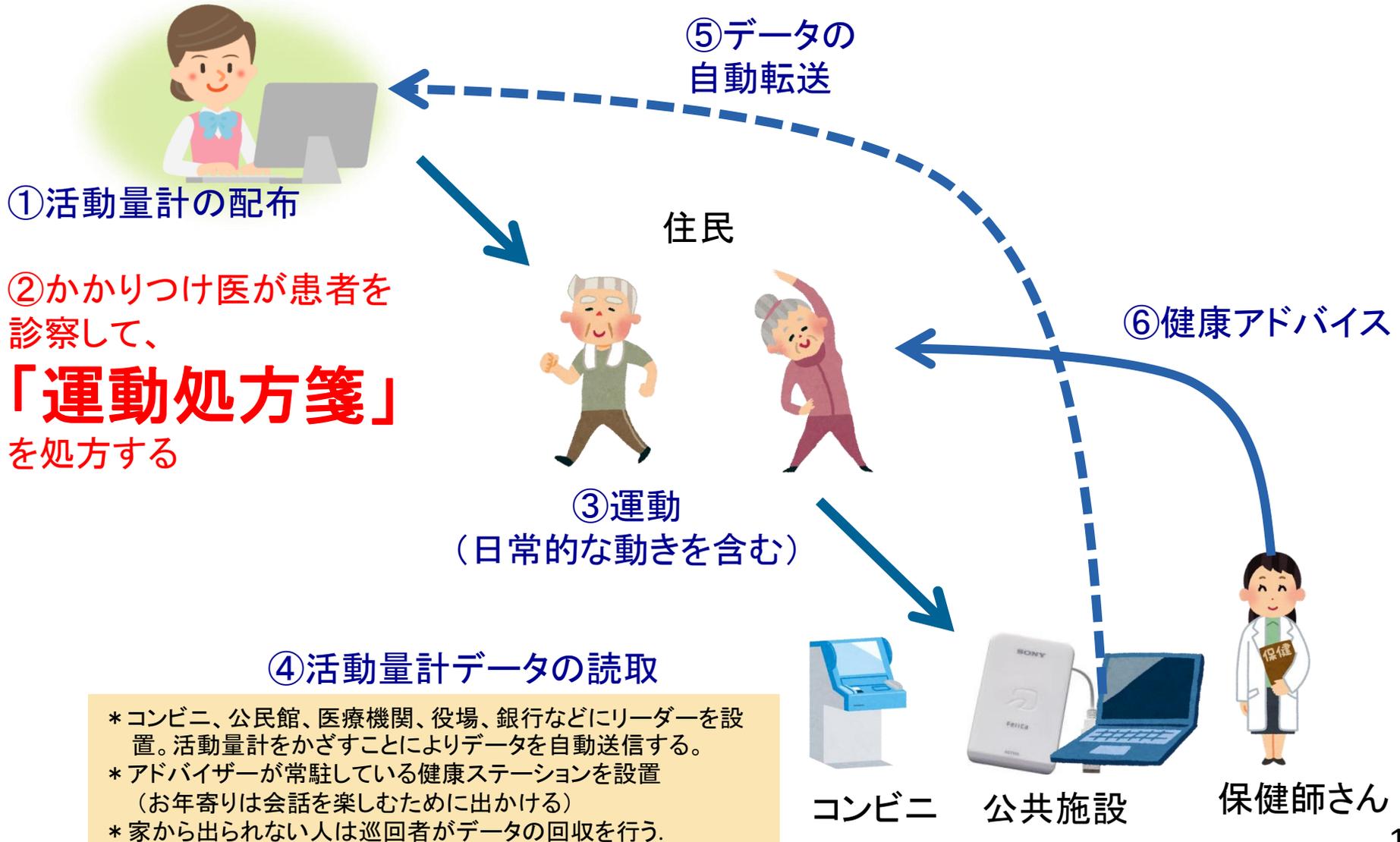
ただし、

現状はここまでのものはないので、既存の活動量計を用いる

活動量計を用いた運動管理システム

羽島郡健康増進プログラム

町役場と協力して
医師会が管理する



活動量データと身体データの活用

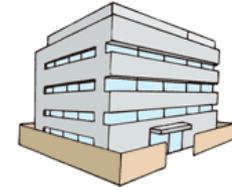
医師会の管理者



個人データの評価

- ・個人ごとの評価
(3ヶ月、半年ごとに体重、血液、骨密度、握力などを検査し、医学的な評価を行う)
- ・個人・地域ごとの活動量ランキング
(週間または月間歩数など)

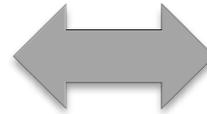
研究機関



データの分析

- ・活動量計をつけて運動をしたことによる身体的な変化を分析
- ・半年後、1年後の医療費削減効果の検証
- ・アンケートによる自己評価、家族から見た評価の分析

密に連携

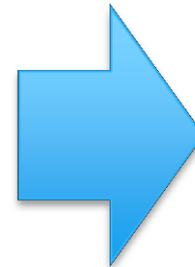


個人の成果やアドバイスを
お知らせする

地域ごとのランキングを
公開する



1年間継続して運動し、目標達成できた人にはインセンティブを与える(使っていた活動量計を贈呈する、地域振興券の贈呈、健康マイレージ等)



県や国へ報告

(今後の活動への理解と協力のため)

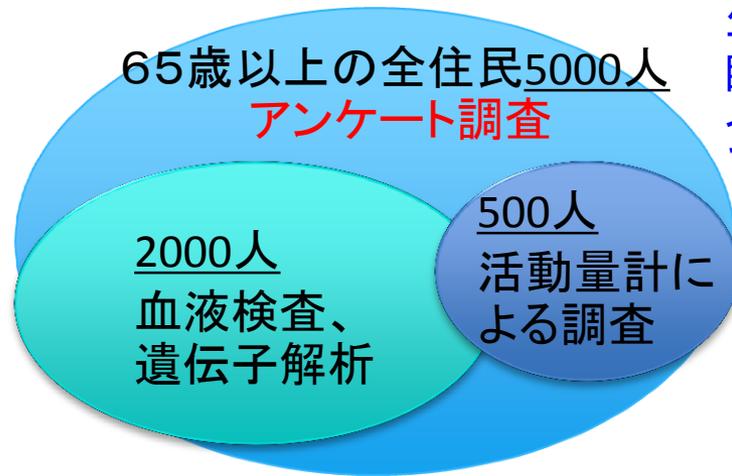
他の地域での似た活動

実施期間	地域	活動名	使用している機器	運動タイプ	対象	通信機の設置場所	参加人数	企画・運営	備考
H12年～現在も 10年以上 継続！	群馬県 中之条町	中之条研究	テルモ 「ライフコーダ」	活動量	重篤な認知症や寝たきりを除いた65歳以上の全住民		約5,000名にアンケート、そのうち500人に活動量計	東京都健康長寿医療センター研究所の青柳幸利氏ら	高齢者の日常的な身体活動と心身の健康に関する学際的疫学研究
H26年1月～	奈良県	奈良県健康ステーション	テルモ 「カロリズム」	歩数 活動量	概ね40歳以上	・橿原健康ステーション (百貨店) ・王寺ステーション (複合施設内)	1000人	奈良県健康づくり推進課 NPO法人橿原健康スポーツクラブ	2週間の活動量計の貸し出し
H23年度～ H27年度	大分県 豊後高田市	健康なまちづくり推進プロジェクト	オムロン 「カロリスキャン」	歩数	40歳以上の市民	各地域庁舎や公民館など16カ所	2000人	高田市子育て・健康推進課	参加希望者は1000円を支払って活動量計を入手する
H25年2月～	千葉県 柏市	「柏の葉スマートヘルス」プロジェクト	日立製作所 (開発未発売品)、オムロン、(株)エー・アンド・デイ	活動量	柏の葉キャンパス駅周辺の居住者		150名	柏市三井不動産株式会社、株式会社メディシンク、日本ヒューレット・パッカー株式会社、イーソリューションズ株式会社	リストバンド型

ここ数年で様々な自治体や団体が活動量計を用いた健康活動を導入している
(地域の医師会が主体となっている活動はない)

活動量計を用いた健康増進活動の参考事例

中之条研究



日頃の運動頻度や時間
生活の自立度
睡眠時間
食生活など

一日24時間、一年365日の
身体活動状況をモニター

中之条町は全国平均より高齢化割合が進んでいる地域である

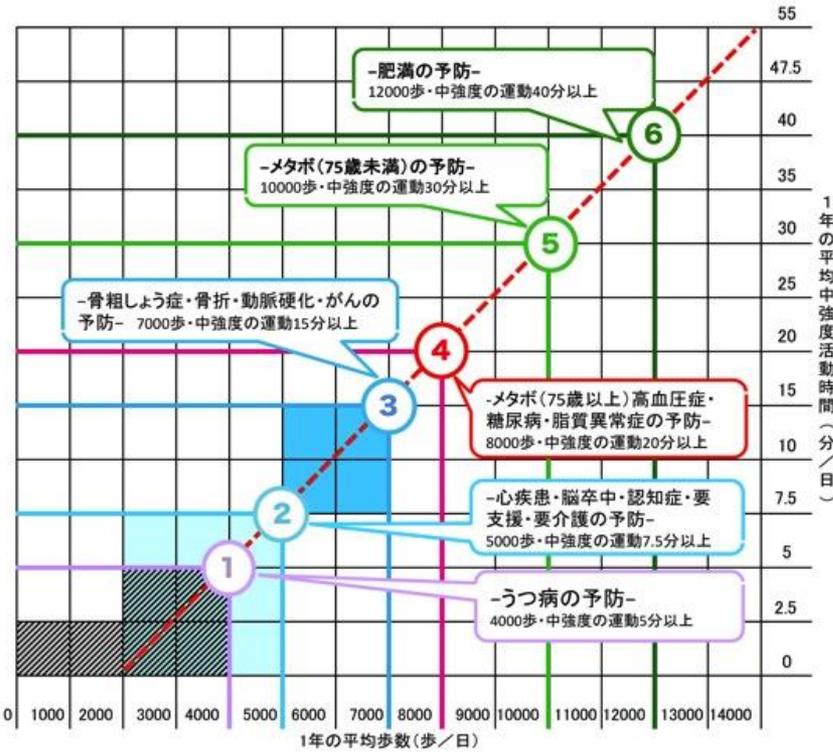
町	高齢化率(%)
中之条町	33.0
笠松町	23.8
岐南町	18.5
全国平均	23.0

2010年度国勢調査より



青柳幸利博士
(東京都健康長寿医療センター研究所)

中之条町の研究成果



健康維持および病気の予防には、1日あたりの平均歩数が8,000歩以上で、そのうち、中強度(速歩きなど)の活動時間が20分以上含まれていると、効果的だということが分かった。

運動目標を設定する際の目安にする

国民健康保険医療費比較 (活動計装着者との比較)

40~65歳国保加入者の医療費比較 (1点10円)



70~74歳国保加入者の医療費比較



国保医療費を活動計の装着の有無で比較すると低いのがわかる。装着前から元気な人が使用しているため医療費が低いことも考えられるが、活動計を装着することにより、一層健康意識の向上、健康の保持増進につながっていると考えられる。さらに、元気な状態が継続されることで、医療費が低く推移していることから効果はあると考える。

ウォーキングに取り組んだ人の医療費は、そうでない人の医療費に比べ、約7割に抑えられていることなどが判明

※出典:中之条町における身体活動計を用いた新しい健康づくり
 ※著者:中之条町役場保健環境課

医療費抑制効果があるのは明らか。
 羽島郡におけるノウハウを確立し、健康寿命の延長や更なる医療費削減効果を目指す。

「羽島郡健康増進プログラム」の組織図

着用100例 vs
非着用100例
を比較検討

町役場(笠松町・岐南町)

官

- * 保健師さんの派遣
- * 本プログラムの広報活動
- * インセンティブの協力
- * 住民の照会

住民

民

企業

産

いつでもウォッチ1の開発
システム作りの協力

* 65歳以上の高齢者

学

研究
機関

データ解析の協力

医師会

医

- ・個人目標の設定
- ・運動状況の管理
- ・身体改善度の評価
- ・アンケートの配布



提案のポイント

地域の医師会が個人の健康を管理するシステムの構築

市町村の健康福祉課や企業が行っている例はあるが、医師会が主体となっている活動はほとんどない。

効果・利点

- * 要支援・介護者数が減少する
- * 骨折などによる入院患者数が減る
- * 生活習慣病患者、予備軍の減少
- * インセンティブ
- * 地域コミュニティの再構築
- * 5年後、10年後の保険料が減少(企業も進んで参加)
- * 健康寿命が延びる
- * 在宅医療をするための基礎体力がつく

医療費の削減につながる

在宅医療をすすめるために

在宅になっても自宅で身の回りのことができる体づくりのための提案

①活動量計を用いた運動管理システム

より安心して在宅医療が受けられるための提案

②24時間バイタル見守りによる在宅患者管理システム

できれば自宅で過ご
したい。最期を迎えたい

家族に遠慮して
施設での療養を望む

病院からは追い出される

有料老人ホームやサ高住は
高い(10万以上)

自宅で一人のときに
何かあったときが不安

患者は有料老人ホームよりは負担が少ない
サ高住をやむを得ず選択するのが実情

そもそもサ高住に必要なサービスとは

- * バリアフリー、各個室に独立したトイレ
- * 医療福祉関係者が常駐
- * 緊急呼び出しのための呼び鈴があること



自宅があるのにもったいない

自宅でサ高住の機能を作ればよい

呼び鈴 → 緊急時呼び出し

管理人 → 誰かがすぐ駆けつけられる

患者の経済的負担が少なくてすむ😊



そこで

ウェアラブルデバイスによる 在宅患者の見守り事業

- ①バイタルデータ(少なくとも脈拍)を検知し、
リアルタイムで発信できる
リストバンド型ウェアラブルデバイス

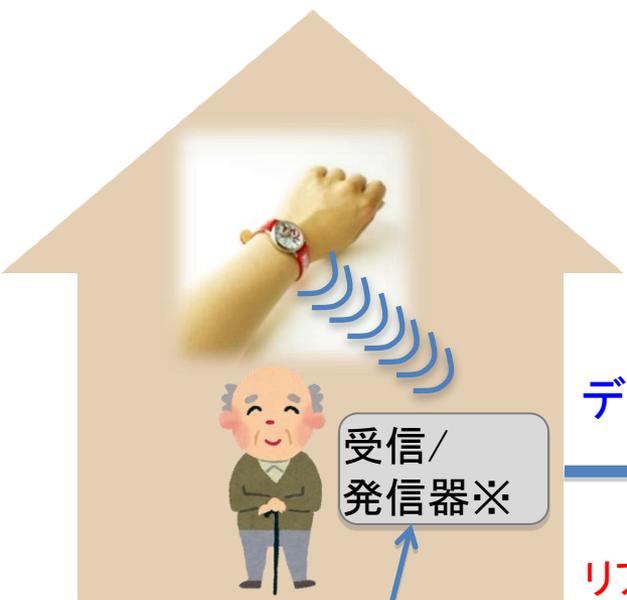
- ②非常ボタン付き

- ③常に装着しておけるのが理想
(簡単に着脱できない、防水)



いつでもウォッチ②
-在宅管理版-

④リアルタイムでデータをかかりつけ医へ送信する (夜間や不在時は病院へ)



※携帯電話のようなもの。
既に開発済みのものがある

データ送信

24時間
リアルタイムで

日中

夜間

かかりつけ医
もICUも応答
がないとき
→消防署

バイタルに異常が見ら
れるとアラームが鳴る

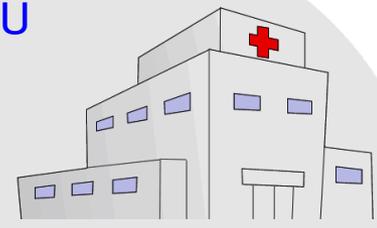
かかりつけ医



外来中も往診
せずに在宅患
者を認識できる

24時間態勢の病院

ICU



ICU医がかか
りつけ医の役
割を代行する

⑤非常ボタンが押された際には警備会社へ通報

自分で異常を感じて
ボタンを押せる



①緊急通報

②すぐに対応

警備会社なら火災・不審者・
悪徳セールスにも対応できる

警備会社に対応
(電話対応、駆けつけ、病院
への搬送、救急車の手配)



警備会社の警備員

※大手警備会社と前向き検討中

異常発生時における対応の流れ



自覚無し
バイタル異常



自分で異常を感じて
ボタンを押せる



対応
(電話・救急車
の手配など)

駆けつけ

警備会社

かかりつけ医
(医療機関)

対応依頼

連絡



特徴

- ① 24時間誰かが見守ってくれる(医療機関にいるのと同じ環境)
- ② 自分で着脱できない
(付け忘れ、認知患者が自分で取り外してしまうのを防ぐ)
- ③ 操作性がいらぬ(アナログ世代のお年寄りでも使える)
- ④ 大人数を対象にできる

効果・利点

- * 自己負担の軽減
- * 自宅でサ高住と同じサービスが受けれる(サ高住を別施設に転換できる)
- * かかりつけ医は家に訪問しなくても患者の健康状態を把握できる
- * 医療機関による看取りが減少し、在宅による看取りが一般的になる
- * 訪問回数が減り、認知症患者への過剰診療による問題が無くなる
- * 災害時にも役立つ

産 官 学 医

による

- ①運動の推進
- ②在宅医療の推進

が

**豊かで効率の良い
“健康長寿都市”を実現する**

まずは笠松町、岐南町から